

平成28年度 輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動報告書

平成28年10月5日

農林水産省

食料産業局長 殿

全国農業協同組合連合会

営農販売企画部

輸出推進課

平成28年度における輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域 : タイ(バンコク)

実施期間 : 平成28年9月22日～ 10月6日

(フェアに係る出張 : 平成28年9月28日～ 10月30日)



「タイ全農青果物フェア」



「商品紹介POP(全9品目)」

1. 『タイ全農青果物フェア』について

- (1) 期間 : 平成28年9月22日(木)～10月6日(木)
- (2) 場所 : 1. UFM Fuji Super 2号店
2. UFM Fuji Super 1号店
3. ISETAN(Tailand)
- (3) 出席者 : Daisho Tailand : Suchada Director, Ploy Maneger
全農 : 営農販売企画部輸出推進課 橋詰、遠藤
- (4) 内容 : 全農のタイ向け青果物輸出はこれまで定期的な販売促進フェアを中心に実施、品目は航空便輸送による果物がメインであった。物流コストが高いため、継続販売はなかなかできなかった。改善策として船便輸送に切り替える必要があった。一方、高価の果物を満載することが難しいため、野菜類の混載が必須条件となる。しかし、普通冷蔵コンテナでは青果物が長距離輸送に耐えられないため、今回CAコンテナでのテスト輸送を実施した。着荷状態はかんしょの低温障害を除いておおむね良好だった。フェア会場は日本人駐在員家族がよく利用するMUF Fuji Superと伊勢丹で実施した。なお、伊勢丹においては北海道産品推進月間に合わせて北海道野菜類のみで販促した。売り場作りはオールジャパンブランドを宣伝する販促資材と全農作成の商品紹介POPおよびのぼりを活用した。また、現地手配のプロモーターによる試食販売も実施した。
- ①出荷日程
- 9月1日、神戸倉庫へ納品・植物検疫。
 - 9月2日、神戸倉庫で検品・バンニング・通関。
 - 9月3日、神戸港出港。
 - 9月12日、ラッカバン(バンコク)港到着。
 - 9月15日、輸入社倉庫到着・検品。
 - 9月19日、販売店舗に搬入。
- ②出荷内容は別紙のとおり。

番号	商品名	産地	ケース重量kg	数量
1	梨(豊水10玉)	千葉県	5	50
2	梨(豊水12玉)	千葉県	5	200
3	梨(20世紀24玉)	鳥取県	10	40
4	ぶどう(巨峰350g10個入り)	長野県	3.5	20
5	ぶどう(シャインマスカット350g10個入り)	長野県	3.5	20
6	さつまいも(40玉)	茨城県	10	100
7	ながいも(8本)	北海道	10	10
8	人参	北海道	10	10
9	玉ねぎ(75玉)	北海道	20	1
10	大根	北海道	10	10
11	かぼちゃ(7~8玉)	北海道	10	5
12	ながねぎ(3pcs×15束)	北海道	0.3	2

輸送はCAコンテナ使用。画像は輸入社倉庫到着時のもの。さつまいもと人参以外は着荷状態は良好であった。





ねぎ先は乾燥による褐変。人参は低温障害と思われる縞模様がついている。



さつまいもはカビと腐敗は出荷量の30%ほど発生した。

フジスーパー1号店



全農の販促資材で売り場作り。オールジャパンシールを果物に貼付。



全農職員と現地プロモーターによる試食販売。



真剣に商品チェックする消費者。

フジスーパー2号店



店舗の希望で小型ののぼりで売り場作り。現地プロモーターによる試食販売。



全農職員による試食勧めと商品説明。



説明を聞いた消費者はかぼちゃ購入。

タイ語に訳した商品説明カードを掲示。

伊勢丹スーパー



伊勢丹の北海道フェアの中に全農青果物コーナーを設けて販促。



全農と現地プロモーターによる試食販売。



広い場所のため、オールジャパンPR用のぼりで売り場作りした。

4. 所感

訪日タイ人の口伝えによる効果は日本青果物のタイへの輸出が年々増えている。美味しさの他、安心安全は日本青果物への評判である。この中で販促フェアを定期的の実施し、購買層拡大を図るのが重要と感じた。

5. フェアの成果及び今後の進め方

①フジスーパーに全農の常設売り場を設けてから初めての全農フェアで、今後の継続販売による輸出増に期待できる。

②日本の柿をよく買ってくれるタイにもっと輸出量を増やしたいが、輸送距離長い関係で軟化の問題解決は課題である。11月にCAコンテナで柿の輸送試験を兼ねて販促フェアを実施する。

以上